



TITLE:

一大獅子座流星の眞経路計算報告

AUTHOR(S):

CITATION:

一大獅子座流星の眞経路計算報告. 天界 1932, 12(130): 48-48

ISSUE DATE:

1932-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161759>

RIGHT:

一大獅子座流星の眞經路計算報告

年末の多忙で、去る十一月十七日火球の計算が後れてゐましたが、本日終了したので御報告申す。〔本誌口繪を見られよ〕

何分にも當地の觀測者が素人なので推定に 困りましたが、實地調査をなした結果、やゝ正確な方向を知る事を得たので、最も時宜に 適した方法で、可成りの精度の眞經路を獲得しました。

× × × × ×

觀 測 者 阪元鐵馬 (Sk) 福岡縣筈崎, $L = 130^{\circ} 26'$ $\phi = 33^{\circ} 37'$

北山谿太 (Kt) 和歌山縣有田郡鳥屋城村市場

$L = 135^{\circ} 16'$ $\phi = 34^{\circ} 3'$

觀測結果

Obs.	Time.	Dur.	Mag.	Vel.	Colour	Remarks
Sk	17d 5h 20m	2.0s	Venus $\times 2$	M \rightarrow rS	W.B \rightarrow R	先少し曲、痕著(4)
Kt	〃 〃 〃	?	甚大	?	WB	徑距稍弧狀痕著 (30s位)

出現した所は四國室戸岬の南方海上70杆の上空であつて詳しくは

發光地點 { 東徑 134度36分, 北緯 32度33分
發光高度 151杆,

消滅地點 東徑 134度20分, 北緯 32度38分, 消滅高度 77杆

地平面に對する突入方向の傾斜は72度で、ほとんど垂直に近く、經路の實長は、74杆になる。(阪元氏の繼續時間より速度を算出すれば37杆になるが、これはやゝ觀測が長きにすぎる様であるし痕を或程度まで入れたかも知れない。

以上の結果には數杆の程度の誤差はあり得るが、大した 異ひはないと思ふ。

他に廣島市の森下氏が5時25分に觀測した大流星があるが、計算の結果この流星ではないらしい事がわかつた、 以 上

十一月二十六日

課 長 小 楨 孝 二 郎